

# 共産党議員団が保健所に対して感染の急拡大について調査

北海道に  
緊急事態宣言  
発令へ



東京オリンピックをきっかけに、デルタ株による新型コロナウイルスの感染爆発が全国に広がっています。釧路管内でも、連日のように新規感染者が見つかっています。一刻も放置できない文字通りの「緊急事態」です。そこで共産党議員団は20日に釧路保健所で聞き取り調査を行いました。

## 「高いレベルで維持している」

保健所は一週間ごとの新規感染者を発表しています。それが下のグラフです。それ以降も「高いレベルで維持している」「今の状況は危機的状況」と厳しい認識を示しました。

## 子どもたちに感染拡大

デルタ株は子ども同士の感染、子どもから大人への感染を広げるとの指摘もあります。保健所は、「学校で2つのクラスターが部活で発生。高齢者は減っているが、10代の感染が30人近くいたのは事実」と説明しました。



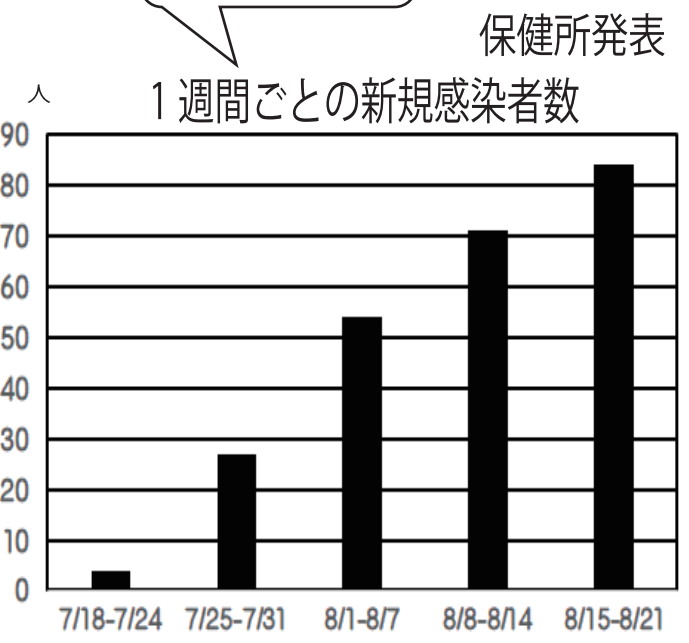
## 感染は通常の生活の中でも

感染の一部は帰省や出張など、外から持ち込まれたケースもあるが、通常の生活の中で広がっているそうです。事業所内や家族感染・友人同士の感染が広がっています。どこでも感染の危険が潜んでいる段階に入ったということなのかもしれないと私は思いました。

## 在宅療養の人が増えている

以前は感染すると、入院か宿泊療養を原則としていましたが、今年5月、道は自宅療養も認めました。23日の新聞報道では釧路地域で入院45人、ホテルを借上げた宿泊療養施設27人、自宅療養71人。在宅療養が大きく増えています。ただし、これは病床がひっ迫したためではありません。最大確保病床数は、釧路根室圏で重症10床、軽・中等症で160床ぐらいあるとのこと、まだ余裕があります。家庭の事情で入院が難しいケース、本人が在宅を希望する場合などが主な理由で、中等症以上になると全員を入院措置としているとのことです。

## 釧路市



## 地域指定による特別の対策を

まん延防止重点地域に旭川市が指定され、釧路市への指定は見送られました。保健所はこのことには関与していませんが、「指定はまん延を防止するために出すもので、すでに釧路はまん延しているので指定したとしても遅い。しかし、経済的事情も考慮すべきなのは当然のこと」と説明しました。

一刻も早い釧路市へのまん延防止重点地域、全道一体での「緊急事態宣言」の発令が必要です。やっと、今週その動きが表に出てきました。